

～精神科病院に入院している方に寄り添い、
孤立を防ぐ『入院者訪問支援事業』が始まります～

『入院者訪問支援事業』キックオフ会の開催について

入院者訪問支援事業は、精神科病院に入院している方のうち、ご家族等がおらず面会機会が少ない方を対象に、入院している方の希望に合わせてお話を伺い、生活相談に乗ることで、入院中の孤立を防ぎ、一人ひとりの「自分らしく生きること」を社会全体で温かく見守ることを目的としています。

入院者訪問支援員養成研修を修了した「訪問支援員」が、精神科病院に入院している方のご希望に合わせて、病院に伺い、お話を伺います。

つきましては、事業開始にあたり下記のとおりキックオフ会を開催します。

1 開催日

令和8年6月25日（木）11時から12時まで

2 場所

地域活動支援センターカミング（中央区淵野辺4-15-6ヴィーナス2階）

3 参加者

訪問支援員

地域活動支援センターカミング職員

相模原市職員

4 内容

- 事業説明
- 訪問支援員からの抱負
- 座談会



5 取材について

取材希望する場合は、事前に下記問い合わせ先までご連絡下さい。

☆入院者訪問支援事業の詳細については、裏面をご参照ください。



問合せ先

精神保健福祉課

直通電話 042-769-9813

相模原市は 入院者訪問支援事業をはじめます。

入院者訪問支援事業とは？

精神科病院に入院している方の希望に応じて、訪問支援員が病院に出向き、入院者の体験や気持ちを丁寧に聴かせていただき、必要な情報提供を行います。

訪問支援員2名が
病院に伺い、
お話を聴きます。

さまざまな立場からの支援の必要性

フォーマルアドボカシー

担い手：専門職

(医療者、福祉職員、行政職員)

- ・適切な療養環境の提供
- ・情報提供
- ・本人中心の医療、ケアの提供など

ピアアドボカシー

担い手：本人と同じような立場・属性の人

- ・深い共感
- ・経験値の共有など

セルフアドボカシー

インフォーマルアドボカシー

担い手：家族・友人など

- ・本人への寄り添い
- ・本人と一緒に専門職の話を聞く
- ・本人の代理人的役割

独立アドボカシー

担い手：入院者訪問支援員

(利害関係のない第三者)

- ・本人の立場に立つ
- ・本人のエンパワメント



※アドボカシーとは、「権利」「支持」という意味があります。

対象者は？

- ①市内精神科病院入院者のうち、市町村長同意による医療保護入院者であって、支援を希望する方
- ②支援を希望する者のうち、相模原市が必要と認めた方

訪問支援員とは？何をする？

- ・資格などの制限はありませんが、必要な研修を受け、相模原市の任命を受けた方です。
- ・精神科病院を訪問し、入院中の方の立場に立って生活に関することや体験したこと、気持ちを丁寧に聴かせていただきます。お伺いした内容に応じて必要な情報提供を行います。
- ・守秘義務があります。

問合せ先

精神保健福祉課

直通電話 042-769-9813